

私の造形教育

福田 理恵

『幼児の教育』のカットを描き始めてから五年が過ぎ、

六年目を迎えようとしています。自分ではいろいろ挑戦して多くの題材を選んできたつもりですが、バラバラとバックナンバーをめくってみると同じパターンの繰り返しに思えてなりません。しかし今年の四月号より、長年に渡って「幼児の教育」を盛り上げて下さってきた皆川美恵子さんの編集から小沢蒼子さんにバトンタッチされ、編集・構成にも十分個性が滲み出るのでしょうか。私のカットもいささか変化したかのように見えるから不思議

です。

私はこの誌とのつき合いから本田和子先生とお知り合いになりました。その御蔭でお茶の水女子大学・家政学部児童学科で「児童造形」の講座を担当することになりました。今年で三年目に入っております。以前は十文字女子大教授の幼児教育ではベテラン中のベテラン林健造先生が長年指導に当たってこられた講座です。先生の熱烈なファンも多いことがっております。経験不足の私ですが、お引き受けしたからには努力して私なりに特長あ

る造形教育を行ないたいと思っています。そこで今回は私の造形教育の考え方を皆様にお話しすることになります。

造形活動は内面的高まりをもって臨むとき、活動の成果は大きく意味深いものです。幼児の場合、この内面的高まりを出会うさまざまな事柄から引き起します。又造形活動を行うことによって彼らが人に伝えようとするコト、以上のことを補う役目も果します。したがって幼児を囲む大人たちは造形活動により明確に内面的高まりを知ることが出来、彼らにとっても活動が多大な満足を得ることにつながるのです。しかしながら幼児時代を過ぎ、論理的な考え方、伝え方を身に付けるに従い、自分の中にはもっと複雑で混沌とした奥深さがあり、もしくはありたいと思います。そんな時造形活動は、内面的高揚を得られずに始まり、表現を形式や技法として誤解し、外に見せることのみを意識してしまいます。結果はあやふやの内に終り、残るのは不満ばかりということになります。よって造形活動から遠ざかりたいと思うよう

になるのです。表現とは「心の中に思う事などを表わして見せること」なのであり、成人に近くなければなる程この表現の源である内面的高揚を自己の中で得る為には長いプロセスを必要とするのです。ところが作り手側から受け手に回った時、造形材料の手軽さ気軽さから往々にしてその内面的高揚までのプロセスを軽んじて見る傾向であります。

ですからせめて幼児教育に携ろうとする人々には造形活動を行うことⅡ自己表現の場として短絡視せず、とりあえず、造形的表示がしっかりと出来るようになってほしいと目標を立てました。表示とは「内のものを外へはっきりと表わすこと」ですから、コトバで日常伝えていく事柄を造形の目を通して考えてもらえたらということ。幼児の場合、環境さえ身のまわりに準備されていれば、自然に表現が生まれます。幼児の活動と準備するのみの教育者であることに甘んじないで、造形活動を愛する人にまずなってもらいたいと望みました。

一年間の児童造形での具体的方法は、

①造形要素を含む小さな作業を繰返し何度となく行うことにより十分に達成感を味わうこと。繰返し行うことで作業を合理的に進める方法を身に付け、用具の安全な取り扱いを知ってもらう。

②次に①より少し展開を求めて、方向性や意味を含む表示への練習を行います。ここでは特に映像的な表し方を行い、日常的題材を用いて繰返します。仲間で気軽に見せ合え、自信を持ってプレイできる習慣をもつことで、ことによって堅苦しく考えがちな練習に緊張感をプラスしました。

③そして最後に筆立てのある連続的な表し方ということで、絵本を作ることを行い、完成したものを仲間で読み合い感想を書くところで締めくくります。

年間を通じ造形活動を身近で楽しく、また人に伝える為にはさまざまな角度から物を捕えなければならぬ難しさも感じ表すことを恐れなくなれば、目標に達成したといえましょう。もしも更に造形活動を通して表現を試みようとすると人が現れるようになれば、私も幸いです。

これからも『幼児の教育』にカットを描き続けるつもりでおりますが、時々カットに登場する子供や大人が私に語りかけます。「自由に動き話のできる絵本に私たちも登場させてもらいたい」と、私も何とか努力して彼らの意に添うような絵本を実現させたいと思っています。その時には是非読者の皆様方にも見ていただき、御意見を拝聴したく存じます。

(お茶の水女子大学講師)

